

令和 2 年 5 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04224

研究課題名(和文) マルチオミクス情報を基盤とした難治性小児がんに対する新規克服法の開発

研究課題名(英文) Development of novel therapeutic strategies for intractable pediatric cancers based on the multi-omics information

研究代表者

滝田 順子 (Takita, Junko)

京都大学・医学研究科・教授

研究者番号：00359621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：難治性小児がんの治療標的を同定するために、大規模臨床検体を対象に多層的オミクス解析を展開し、以下の成果を得た。小児T細胞性急性リンパ性白血病の初発、再発検体を用いてクローン進化の検討を行い、NOTCH1が発症と進展に重要なドライバーであることを見出した。また神経芽腫の再発、転移腫瘍を含む90例のopen data (TARGET)をもとに多層的オミクス情報を解析し、PHGDHが難治例の候補治療標的であることを突き止めた。さらに大規模データ解析により骨肉腫の治療標的C1GALT1を同定し、FGFR4阻害が横紋筋肉腫の有力な治療法となりうることを見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、多層的オミクス解析を駆使して、難治性小児がんの治療標的の探索を行い、小児T細胞性急性リンパ性白血病におけるNOTCH1が難治性に寄与することを見出し、また新たな治療標的として、神経芽腫におけるPHGDH、骨肉腫におけるC1GALT1を同定した。さらにFGFR4の阻害が横紋筋肉腫に治療に有効となりうることを見出した。本研究の成果により、難治性小児がんの新たな治療スキームを提案し、治療の最適化を実現することは、小児がんの予後の改善ならびにQOLの向上に多大な貢献をなすものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：To explore therapeutic gene targets in intractable pediatric cancers, we conducted multi-omics analysis in a large number of clinical samples. Based on the evolutionary analyses, we found that NOTCH1 is an important driver in the development and progression of pediatric T cell acute lymphoblastic leukemia. In addition, the multi-omics information of 90 neuroblastoma cases including recurrent or metastatic tumors deposited in open database (TARGET) provided that PHGDH would be a promising therapeutic target in untreatable neuroblastoma cases. Our large-scale data analysis revealed that C1GALT1 is a candidate gene target in osteosarcoma, and also showed that FGFR4 inhibition could be a promising therapy for rhabdomyosarcoma.

研究分野：小児がん

キーワード：小児がん 発現プロファイル 治療標的 神経芽腫 横紋筋肉腫 骨肉腫

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本邦で発生する小児がんは年間約 2,500 例と推定されており、成人がんと比較すると希ではあるものの、我が国の主要な小児死亡原因となっている。とりわけ遠隔転移を伴うものや再発を来すものは依然として極めて予後不良であり、有効な標準治療は確立されていない。従って、遠隔転移・再発例に特化した新たな治療戦略が必要と考えられるが、そのような新規治療法を裏打ちする小児がんの分子病態の研究は、国内外の動向をみてもその希少性から、成人がんに比べて著しく立ち遅れているのが現状である。

一方、近年のゲノム解析技術の飛躍的な向上により、一度に膨大なゲノム情報を得ることができる次世代シーケンサーが開発され、がん化のメカニズムが次々と解明されている。その結果、網膜芽腫、神経芽腫および髄芽腫など小児がんにおいては、重複する遺伝子変異は、がん種に問わず、成人がんと比べると極端に少ないことが判明している。すなわち、小児がんの発症や進展には遺伝学的背景のみならず、エピゲノム制御あるいはエクソソームといった細胞間コミュニケーション機構の破たんなど多種多様な分子病態が関与することが推測される。従って、難治性小児がんの発症機序を解明するためには、マルチオミックス解析による多方向性かつ体系的な分子病態の情報収集が重要と考えられる。

申請者らは、これまで一貫して小児がんの分子基盤の解明に取り組み、以下のような成果を挙げてきた。1) 神経芽腫において allelotype 解析を行い、新たな高頻度欠失領域として 2q, 9p, 18q を同定した。2) これらの領域の詳細な物理的欠失地図を作成して *Caspase 8*, *p16*, *DCC* が神経芽腫の候補がん抑制遺伝子であることを明らかにした。また 3) 神経芽腫、リンパ腫および骨髄異型症候群における SNP アレイによる網羅的ゲノム解析を行い、ALK, A20 および CBL がそれぞれの標的分子であることをつきとめた(図 1)。4) また、横紋筋肉腫における新規予後予測バイオマーカーを同定し、予後不良群における PI3K 阻害剤の有用性に関する分子基盤を構築した(図 1)。

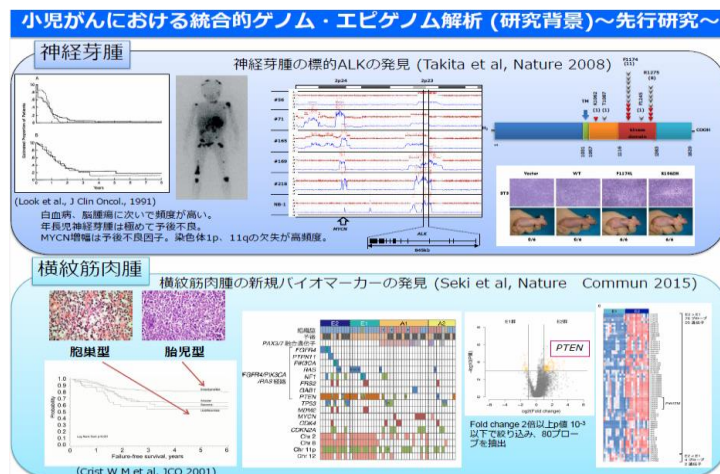


図 1 小児がんにおける先行研究

< 図 1 の説明 >

難治性小児がんの代表である神経芽腫 ALK の異常活性が約 10%に認められる。これらの症例の治療には ALK 阻害剤の有用性が期待されている(図の上段)。横紋筋肉腫は、メチル化のパターンの違いにより 4 群に分類された。この分類を用いることにより胎児型横紋筋肉腫の中の予後不良群を抽出することが可能である(図の下段)。

2. 研究の目的

これらの実績とゲノム解析技術の進歩を背景に本研究では、小児がんの初発、転移、再発腫瘍に対して、次世代シーケンサー、高密度マイクロアレイを用いたゲノム・エピゲノム解析やエクソソーム、メタボローム解析といったオミックス解析を展開し、難治化を規定する分子病態の解明を試みる。更に研究成果を発展させることにより、難治性小児がんの根治を目指した新規治療アルゴリズムの提案、新規創薬の開発を目指す。本研究の成果として提唱する新規克服法は、国内外の各臨床研究グループと連携し、可及的速やかな臨床運用の実現化を検討する。小児がんを対象としたマルチオミックス解析は、腫瘍組織の多様性を解明する上で大きな利点があり、これまでの研究では明らかにされなかった新たな知見が得られると推測される。

3. 研究の方法

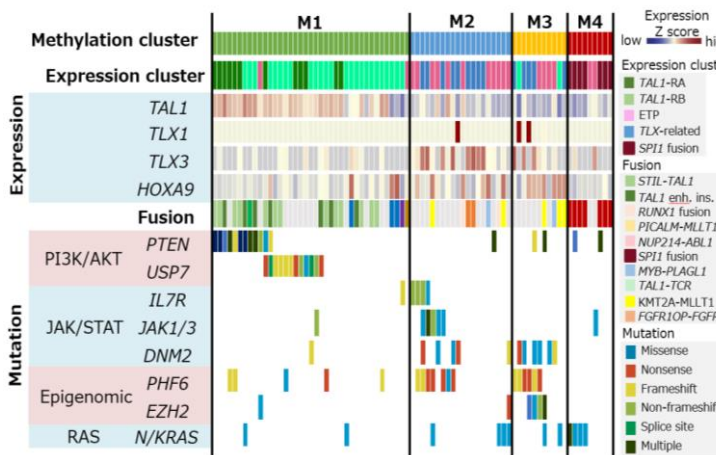
造血器腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍、肝腫瘍、肺腫瘍の初発、再発、転移腫瘍を対象に、全ゲノム/エクソーム解析、RNA sequencing、エピゲノム解析、ChIP シークエンス、エクソーム解析、メタボローム解析といったマルチオミックス解析を行い、難治性小児がんの分子プロファイリングを行う。さらに、検出された候補標的分子を用いた新規創薬の開発、新規バイオマーカーの同定を試みる。本計画を遂行するため、基礎的検討を行う本研究室を中心に、各腫瘍の先端医療を担い豊富な症例を有する専門病院の診療科、臨床診断への応用を実現する病理学研究室の間で密接に協力し、総体となって計画を推進する体制を構築している。

解析検体は、東大小児科および協力研究施設で保存されている連結可能匿名化済みの腫瘍検体 1,000 検体(神経芽腫 500、Ewing 肉腫 100、横紋筋肉腫 60、胚細胞腫瘍 50、肝腫瘍 50、造血器腫瘍 200、希少肉腫 30、希少がん 10)とする。

4. 研究成果

小児 T 細胞性急性リンパ性白血病における網羅的メチル化解析とクローン進化の解明

小児 T 細胞性急性リンパ性白血病 (T-ALL) の中でも再発、非寛解例は依然として予後不良であり有効な治療法は確立されていない。先行研究において、新たな治療標的およびバイオマーカーを同定するために再発難治例を含む 121 例にコホートに対して、RNA シーケンスおよび網羅的メチル化解析を行った。その結果、重複する新規 SPI1 融合遺伝子を約 4% の例に見出した (Seki et al, *Nat. Genet.*, 2017)。SPI1 融合遺伝子は、T 細胞の分化抑制と細胞増殖効果を示すことが確認され、造腫瘍性を有することが判明した。また、SPI1 融合遺伝子を有する例は RAS 経路の変異と FLT1, KIT や TERT の発現上昇が特徴的あり、極めて予後不良であることが見出された。そこで、本研究では、SPI1 融合遺伝子陽性 T-ALL のさらに詳細な分子プロファイリングを行うために、79 例の臨床検体を用いて、網羅的メチル化解析を行った (Kimura et al, *Leukemia*, 2020)。その結果、小児 T-ALL はメチル化プロファイルの違いにより 4 群のクラスターに分類されることが判明した。これらのクラスターは TAL1、TLX、HOXA9 などの転写因子の高発現に特徴づけられることが明らかとなったが、興味深いことに SPI1 融合遺伝子を有する例は特有の DNA メチル化プロファイルを有する他の T-ALL とは異なる新たなサブタイプであることが判明した。SPI1 クラスターの特徴として、RAS 経路、TERT の高発現が見出されたことから、これらの経路は SPI1 融合遺伝子陽性例の有用な治療標的となりうることを示された (図 2)。小児 T-ALL における予後不良バイオマーカーは、これまで同定されていなかったことから SPI1 融合遺伝子の同定および分子プロファイリングは臨床的に意義が高い発見と言える。診断時にこの融合遺伝子を同定し、治療を強化することは、小児 T-ALL 全体の治療成績の向上につながるものと期待される。

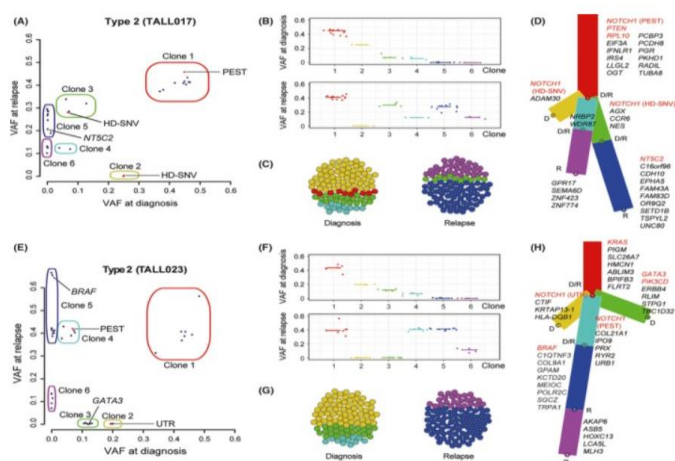


<図 2 の説明>

小児 T-ALL におけるメチル化プロファイルにもとづいたクラスター。各クラスターは転写因子の発現と遺伝子異常に特徴づけられる。M1: TAL1 クラスター、M2, M3: TLX/HOXA9 クラスター、M4: SPI1 クラスター。M4 クラスターの特徴として、RAS 経路、TERT の高発現が認められた。

図 2 小児 T-ALL におけるメチル化クラスター

小児 T-ALL において NOTCH1 シグナル経路は最も高頻度な異常であり、白血病化に重要な役割を果たしていると考えられている。しかし、NOTCH1 経路の変異が再発や進展にどのような役割を果たしているかは十分に解明されていない。そこで、11 例の初発・再発ペア検体を含む 30 例の全エクソーム解析を行い、クローン進化の解明を試みた (Kimura et al, *Cancer Science* 2019)。その結果、NOTCH1 経路の異常は約 70%に検出され、初発、再発での頻度の差は見出されなかった。最も高頻度な異常は一塩基置換であったが、再発例においては PEST ドメインの異常が高頻度であった。また初発時、再発時のマイナークローン、メジャークローンのいずれにおいても NOTCH1 経路の異常が見出された。興味深いことに、2 例において、初発、再発時の NOTCH1 の変異がことなるいわゆる” Switching” が生じていることが明らかとなった (図 3)。以上の結果より、小児 T-ALL において、NOTCH1 経路の異常は、初発、再発時においても強力なドライバー変異であることが示された。



＜図 3 の説明＞

小児 T-ALL にけるクローン進化の 2 例。NOTCH1 変異は初発、再発のメジャークローンとして見出されたが、初発時と再発時で NOTCH1 の異常が変換されていることが観察された。一右の図は、クローン進化の樹形図をしめす。

図 3 小児 T-ALL のクローン進化と NOTCH1 異常の” Switching”

ウルトラハイリスク神経芽腫における新規治療標的の同定

神経芽腫のうち 11q LOH を有する予後不良群は、ほとんど遺伝子異常を有さないことから ALK のような治療標的はこれまで同定されていなかった。この群においては、遺伝子異常を伴わないメチル化異常やメタボローム異常が病態に関与している可能性が推測される。そこで本研究では、神経芽腫の中でも 11q LOH を有する群の治療標的を探索するために、初発再発例を含む 90 例の神経芽腫の公開データ (TARGET) を用いて、網羅的メチル化情報の解析を行った。その結果、11q LOH 陽性神経芽腫はメチル化プロファイルの違いにより 2 群に分類されることが判明した。発現データとエクソーム解析のデータを合わせて解析したところ、この 2 群はゲノムコピー数や ALK などの遺伝子異常に特徴づけられる 2 群であることが見出された。興味深いことに、このうち 1 群は極めて予後不要なウルトラハイリスクであることが明らかとなった (図 4)。この群分けを検証するために、網羅的メチル化解析を行った自験例 30 例 (11q LOH あり) のコホートにおいて、同様に層別化解析を行ったところ、2 群のクラスタリングは再現され、予後との関連も検出された (図 4)。次に予後不良クラスター群の治療標的を同定するために、発現データの比較を行ったところ、セリン代謝の第一段階に関与するホスホグリセリ酸脱水素酵素 (PHGDH) の発現が過剰になっていることを見出した (論文作成中)。腫瘍細胞では増殖のためにセリン代謝が亢進していることが知られており、実際、予後不良の大腸がんや肺がん、乳がんでは PHGDH の高発現が報告されている。そこで、神経芽腫の PHGDH 高発現細胞株を用いて、ノックダウン実験を行ったところ、顕著な細胞増殖抑制効果が観察された。一方、PHGDH 低発現細胞株では、同様の顕著な細胞増殖抑制効果は再現されなかった (図 4)。さらに、PHGDH 阻害剤の効果を検証したところ、同様に PHGDH 高発現細胞株では細胞増殖抑制効果が見出され、これはシスプラチンの作用を増強させることが判明した。また、網羅的メタボローム解析を行って、PHGDH 阻害剤の投与前後で代謝経路の変化を解析したところ、PHGDH 高発現細胞株でみられた代謝経路の PHGDH 阻害剤によ

る影響は PHGDH 低発現細胞株では、認められなかった。以上の結果より、ウルトラハイリスク神経芽腫の新規治療標的として、PHGDH が見出され、この阻害剤は正常細胞の代謝系に影響の少ない有望な候補治療標的薬となりうることが明らかとなった。

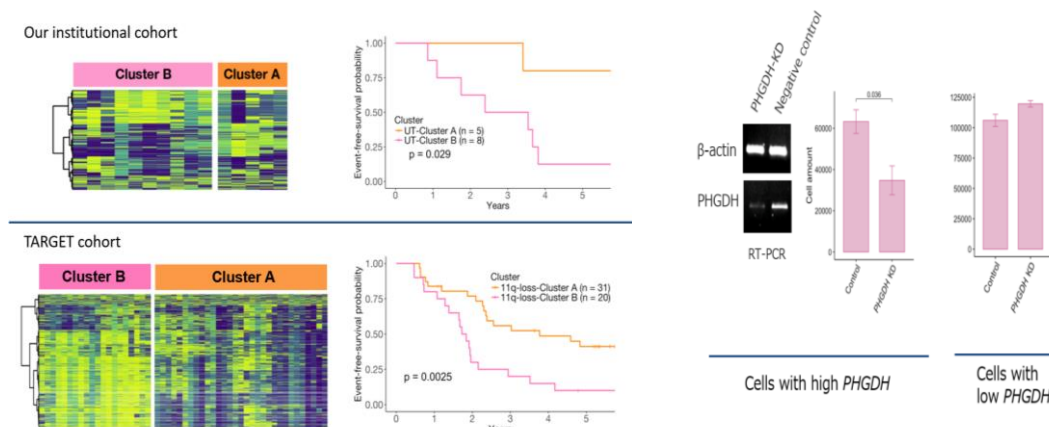


図 4 11q LOH 陽性神経芽腫におけるメチル化クラスターと予後、PHGDH 阻害剤の効果
 <図 4 の説明>左図はメチル化プロファイルによるクラスター、中央図はクラスターごとの予後解析。上段は自験例、下段が TARGET のコホート。右図は PHGDH ノックダウンによる神経芽腫細胞株の細胞増殖抑制効果。

骨肉腫における新規治療標的の同定

骨肉腫の治療成績は全体として 70%に達しているものの、遠隔転移を有する例や再発例は依然として予後不良であり、標準治療は確立していない。そこで、難治性骨肉腫の治療標的を同定するために、大規模公開データによる発現解析を行った。その結果、骨肉腫は発現プロファイルの違いから予後と関連のある 2 群に分類されることが明らかとなった(論文作成中)。これは別コホートでも検証されるクラスタリングであることが判明し、予後良好なクラスターの発現パターンは正常な骨芽細胞の発現プロファイルと近似することが見出された。興味深いことに予後不良クラスターで顕著な発現上昇が検出された糖鎖修飾に関連する CIGAL1 のノックダウン実験により、骨肉腫細胞株の細胞増殖抑制効果が観察された。従って、この遺伝子は難治性骨肉腫の新たな治療標的となりうることが示された。

横紋筋肉腫における FGFR4 阻害の細胞増殖抑制効果

横紋筋肉腫は、小児の軟部腫瘍で最も頻度が高い腫瘍であり、転移を有する例や再発例において有効な治療法は確立されていない。先行研究において、申請者らは、横紋筋肉腫のメチル化サブグループを同定し、遺伝子異常や組織型、予後と強い関連を示すことを報告した (Seki et al, *Nat. Commun.* 2015)。しかし、予後不良群にける治療標的の同定には至らなかった。そこで本研究では、TARGET の公開データをもとに、横紋筋肉腫メチル化と発現データをもとにクラスタリング解析を行った。その結果、メチル化プロファイルの違いにより、4 群に分類され、それぞれ組織型と強い相関を示した。また発現データによる遺伝子変異の検討からメチル化クラスターの 4 群は、先行研究におけるメチル化サブグループと一致する可能性が高いことが示され、別コホートにおける再現性が確認された。4 群のサブグループのうち胎児型横紋筋肉腫の中で予後不良な一群で FGFR4 経路が活性化していることが明らかとなり、細胞株を用いたノックダウン実験で、有意な細胞増殖抑制効果が認められた。以上の結果から、FGFR4 阻害剤は難治性胎児型横紋筋肉腫の治療標的薬となりうることが見出された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 40件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 Mitsui Tetsuo, Fujita Naoto, Koga Yuhki, Fukano Reiji, Osumi Tomoo, Hama Asahito, Koh Katsuyoshi, Kakuda Harumi, Inoue Masami, Fukuda Takahiro, Yabe Hiromasa, Takita Junko, Shimada Akira, Hashii Yoshiko, Sato Atsushi, Atsuta Yoshiko, Kanda Yoshinobu, Suzumiya Junji, Kobayashi Ryoji	4. 巻 67
2. 論文標題 The effect of graft versus host disease on outcomes after allogeneic stem cell transplantation for refractory lymphoblastic lymphoma in children and young adults	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kato Motohiro, Nakasone Hideki, Nakano Nobuaki, Fuji Shigeo, Shinohara Akihito, Yokoyama Hisayuki, Sakashita Kazuo, Hori Tsukasa, Takahashi Satoshi, Nara Miho, Kanda Yoshinobu, Mori Takehiko, Takita Junko, Kawaguchi Hiroshi, Kawakita Toshiro, Ichinohe Tatsuo, Fukuda Takahiro, Atsuta Yoshiko, Ogata Masao	4. 巻 -
2. 論文標題 Clinical course of autologous recovery with chromosomal abnormalities after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bone Marrow Transplantation	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41409-019-0765-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yoshida Takeshi, Jonouchi Tatsuya, Osafune Kenji, Takita Junko, Sakurai Hidetoshi	4. 巻 7
2. 論文標題 A Liver Model of Infantile-Onset Pompe Disease Using Patient-Specific Induced Pluripotent Stem Cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Cell and Developmental Biology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fcell.2019.00316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kimura S, Seki M, Mansour Marc R., Ohara A, Horibe K, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J	4. 巻 34
2. 論文標題 DNA methylation-based classification reveals difference between pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia and normal thymocytes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 1163 ~ 1168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-019-0626-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amano Kenichi, Takasugi Nao, Kubota Yasuo, Mitani Yuichi, Sekiguchi Masahiro, Watanabe Kentaro, Fujimura Junya, Oka Akira, Takita Junko, Hiwatari Mitsuteru	4. 巻 67
2. 論文標題 CBFA2T3 GLIS2 positive acute megakaryoblastic leukemia in a patient with Down syndrome	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28055	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiba Takeshi, Tanaka Takayuki, Ida Hiroaki, Watanabe Misa, Nakaseko Haruna, Osawa Mitsujiro, Shibata Hirofumi, Izawa Kazushi, Yasumi Takahiro, Kawasaki Yuri, Saito Megumu K., Takita Junko, Heike Toshio, Nishikomori Ryuta	4. 巻 144
2. 論文標題 Functional evaluation of the pathological significance of MEFV variants using induced pluripotent stem cell-derived macrophages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Allergy and Clinical Immunology	6. 最初と最後の頁 1438 ~ 1441.e12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jaci.2019.07.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Y, Uryu K, Ito T, Seki M, Kawai T, Isobe T, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Takita J	4. 巻 110
2. 論文標題 Integrated genetic and epigenetic analysis revealed heterogeneity of acute lymphoblastic leukemia in Down syndrome	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 3358 ~ 3367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinaga Daisuke, Baba Shiro, Makiyama Takeru, Shibata Hirofumi, Hirata Takuya, Akagi Kentaro, Matsuda Koichi, Kohjitani Hirohiko, Wuriyanghai Yimin, Umeda Katsutsugu, Yamamoto Yuta, Conklin Bruce R., Horie Minoru, Takita Junko, Heike Toshio	4. 巻 13
2. 論文標題 Phenotype-Based High-Throughput Classification of Long QT Syndrome Subtypes Using Human Induced Pluripotent Stem Cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Stem Cell Reports	6. 最初と最後の頁 394 ~ 404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stemcr.2019.06.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akahane Koshi, Murakami Yasushi, Kagami Keiko, Abe Masako, Hama Daisuke, Shinohara Tamao, Watanabe Atsushi, Goi Kumiko, Nishi Rie, Yamauchi Takahiro, Kimura Shunsuke, Takita Junko, Look A. Thomas, Minegishi Masayoshi, Sugita Kanji, Inukai Takeshi	4. 巻 37
2. 論文標題 High ENT1 and DCK gene expression levels are a potential biomarker to predict favorable response to nelarabine therapy in T cell acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hematological Oncology	6. 最初と最後の頁 516 ~ 519
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hon.2654	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe A, Inukai T, Kagami K, Abe M, Takagi M, Fukushima T, Fukushima H, Nanmoku T, Terui K, Ito T, Toki T, Ito E, Fujimura J, Goto H, Endo M, Look T, Kamps M, Minegishi M, Takita J, Inaba T, Takahashi H, Ohara A, Hama D, Shinohara T, Somazu S, Oshiro H, Akahane K, Goi K, Sugita K	4. 巻 8
2. 論文標題 Resistance of t(17;19) acute lymphoblastic leukemia cell lines to multiagents in induction therapy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Medicine	6. 最初と最後の頁 5274 ~ 5288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cam4.2356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iguchi A, Cho Y, Yabe H, Kato S, Kato K, Hara J, Koh K, Takita J, Ishihara T, Inoue M, Imai K, Nakayama H, Hashii Y, Morimoto A, Atsuta Y, Morio T	4. 巻 110
2. 論文標題 Long-term outcome and chimerism in patients with Wiskott-Aldrich syndrome treated by hematopoietic cell transplantation: a retrospective nationwide survey.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Hematol	6. 最初と最後の頁 364-369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-019-02686-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitani Y, Hiwatari M, Seki M, Hangai M, Takita J.	4. 巻 110
2. 論文標題 Successful treatment of acute myeloid leukemia co-expressing NUP98/NSD1 and FLT3/ITD with preemptive donor lymphocyte infusions.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Hematol	6. 最初と最後の頁 512-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-019-02665-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masui Sho, Yonezawa Atsushi, Izawa Kazushi, Hayakari Makoto, Asakura Kayoko, Taniguchi Risa, Isa Masahiko, Shibata Hirofumi, Yasumi Takahiro, Nishikomori Ryuta, Takita Junko, Matsubara Kazuo	4. 巻 5
2. 論文標題 Plasma infliximab monitoring contributes to optimize Takayasu arteritis treatment: a case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40780-019-0136-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Yasuo, Arakawa Yuki, Sekiguchi Masahiro, Watanabe Kentaro, Hiwatari Mitsuteru, Kishimoto Hiroshi, Nakazawa Atsuko, Yoshida Akihiko, Ogawa Seishi, Hanada Ryoji, Oka Akira, Takita Junko, Koh Katsuyoshi	4. 巻 66
2. 論文標題 A case of malignant rhabdoid tumor mimicking yolk sac tumor	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.27784	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小澤 由衣, 三牧 正和, 佐々木 亜希子, 関口 昌央, 滝田 順子: 青天目 信, 小田 洋一郎	4. 巻 72
2. 論文標題 発作性異常眼球運動を契機に診断に至ったグルコーストランスポーター1欠損症	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児科臨床	6. 最初と最後の頁 601-604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 老木 菜々美, 馬場 志郎, 尾崎 智康, 赤木 健太郎, 松田 浩一, 吉永 大介, 平田 拓也, 片山 博視, 滝田 順子	4. 巻 123
2. 論文標題 胸痛を契機に心機能低下が判明した左室緻密化障害合併WPW症候群	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1388-1394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田坂 佳資, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 神鳥 達哉, 磯部 清孝, 加藤 格, 平松 英文, 前田 由可子, 大封 智雄, 足立 壯一, 滝田 順子	4. 巻 56
2. 論文標題 髄移植後に難治性の自己免疫性溶血性貧血を発症した先天性無巨核球性血小板減少症の乳児例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児血液・がん学会雑誌	6. 最初と最後の頁 348-352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三谷 友一, 関 正史, 鬼澤 真実, 日高 もえ, 藤村 純也, 樋渡 光輝, 滝田 順子	4. 巻 56
2. 論文標題 IST不応の小児最重症再生不良性貧血に対する臍帯血移植例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児血液・がん学会雑誌	6. 最初と最後の頁 338-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝田 順子	4. 巻 58
2. 論文標題 小児がんのトランスレーショナルリサーチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児科医学会会報	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 老木 菜々美, 馬場 志郎, 尾崎 智康, 赤木 健太郎, 松田 浩一, 吉永 大介, 平田 拓也, 片山 博視, 滝田 順子	4. 巻 123
2. 論文標題 胸痛を契機に心機能低下が判明した左室緻密化障害合併WPW症候群	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1388-1394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomoyasu Chihiro, Imamura Toshihiko, Tomii Toshihiro, Yano Mio, Asai Daisuke, Goto Hiroaki, Shimada Akira, Sanada Masashi, Iwamoto Shotaro, Takita Junko, Minegishi Masayoshi, Inukai Takeshi, Sugita Kanji, Hosoi Hajime	4. 巻 108
2. 論文標題 Copy number abnormality of acute lymphoblastic leukemia cell lines based on their genetic subtypes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Hematology	6. 最初と最後の頁 312 ~ 318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-018-2474-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osumi Tomoo, Tsujimoto Shin-ichi, Tamura Moe, Uchiyama Meri, Nakabayashi Kazuhiko, Takita Junko(22th), Inukai Takeshi, Ogawa Seishi, Kitamura Toshio, Matsumoto Kimikazu, Hata Kenichiro, Kiyokawa Nobutaka, Goyama Susumu, Kato Motohiro	4. 巻 78
2. 論文標題 RecurrentRARBTranslocations in Acute Promyelocytic Leukemia LackingRARATranslocation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cancer Research	6. 最初と最後の頁 4452 ~ 4458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1158/0008-5472.CAN-18-0840	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsujimoto Shinichi, Osumi Tomoo, Uchiyama Meri, Shirai Ryota, Moriyama Takaya, Takita Junko(16th), Ito Etsuro, Tomizawa Daisuke, Manabe Atsushi, Kiyokawa Nobutaka, Yang Jun J., Kato Motohiro	4. 巻 32
2. 論文標題 Diploptype analysis of NUDT15 variants and 6-mercaptopurine sensitivity in pediatric lymphoid neoplasms	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 2710 ~ 2714
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-018-0190-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Shunsuke, Seki Masafumi, Yoshida Kenichi, Shiraishi Yuichi, Akiyama Masaharu, Koh Katsuyoshi, Imamura Toshihiko, Manabe Atsushi, Hayashi Yasuhide, Kobayashi Masao, Oka Akira, Miyano Satoru, Ogawa Seishi, Takita Junko	4. 巻 110
2. 論文標題 NOTCH 1 pathway activating mutations and clonal evolution in pediatric T cell acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 784 ~ 794
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.13859	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li Jian-Feng, Dai Yu-Ting, Lilljebjorn Henrik, Shen Shu-Hong, Cui Bo-We, Takita Junko(17th), Yasuda Takahiko, Mano Hiroyuki, Johansson Bertil, Yang Jun J., Yeoh Allen Eng-Juh, Hayakawa Fumihiko, Chen Zhu, Pui Ching-Hon, Fioretos Thoas, Chen Sai-Juan, Huang Jin-Yan	4. 巻 115
2. 論文標題 Transcriptional landscape of B cell precursor acute lymphoblastic leukemia based on an international study of 1,223 cases	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 E11711 ~ E11720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1814397115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kimura Shunsuke, Hasegawa Daisuke, Yoshimoto Yuri, Seki Masafumi, Daida Atsuro, Sekiguchi Masahiro, Hirabayashi Shinsuke, Hosoya Yosuke, Kobayashi Masao, Miyano Satoru, Ogawa Seishi, Takita Junko, Manabe Atsushi	4. 巻 50
2. 論文標題 Duplication of ALK F1245 missense mutation due to acquired uniparental disomy associated with aggressive progression in a patient with relapsed neuroblastoma	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oncology Letters	6. 最初と最後の頁 3323-3329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/ol.2019.9985	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Fumitoshi, Baba Shiro, Yoshinaga Daisuke, Umeda Katsutsugu, Hirata Takuya, Takita Junko, Heike Toshio	4. 巻 14
2. 論文標題 The intracellular Ca ²⁺ concentration is elevated in cardiomyocytes differentiated from hiPSCs derived from a Duchenne muscular dystrophy patient	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 213768-213768
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0213768	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Urayama KY, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Ayukawa Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi Y, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Takita J et al.	4. 巻 8
2. 論文標題 Regional evaluation of childhood acute lymphoblastic leukemia genetic susceptibility loci among Japanese.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-19127-7.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Isobe T, Seki M, Yoshida K, 他33名, Takita J.	4. 巻 78
2. 論文標題 Integrated Molecular Characterization of the Lethal Pediatric Cancer Pancreatoblastoma.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cancer Res.	6. 最初と最後の頁 865-876
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1158/0008-5472.CAN-17-2581.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uryu K, Nishimura R, Kataoka K, Sato Y, Nakazawa A, Suzuki H, Yoshida K, Seki M, Hiwatari M, Isobe T, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Koh K, Hanada R, Oka A, Hayashi Y, Ohira M, Kamijo T, Nagase H, Takimoto T, Tajiri T, Nakagawara A, Ogawa S, Takita J.	4. 巻 8
2. 論文標題 Identification of the genetic and clinical characteristics of neuroblastomas using genome-wide analysis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncotarget.	6. 最初と最後の頁 107513-107529
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/oncotarget.22495.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsujiimoto SI, Nakano Y, Osumi T, Okada K, Ouchi-Uchiyama M, Kataoka K, Fujii Y, Ohki K, Seki M, Tamagawa N, Takita J, Ogawa S, Kiyokawa N, Hara J, Kato M.	4. 巻 -
2. 論文標題 A Cryptic NUP214-ABL1 Fusion in B-cell Precursor Acute Lymphoblastic Leukemia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Pediatr Hematol Oncol.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000001007.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takagi M, Yoshida M, Nemoto Y, Tamaichi H, Tsuchida R, Seki M, Uryu K, Nishii R, Miyamoto S, Saito M, Hanada R, Kaneko H, Miyano S, Kataoka K, Yoshida K, Ohira M, Hayashi Y, Nakagawara A, Ogawa S, Mizutani S, Takita J.	4. 巻 109
2. 論文標題 Loss of DNA Damage Response in Neuroblastoma and Utility of a PARP Inhibitor.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Natl Cancer Inst.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jnci/djx062.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takita J	4. 巻 108
2. 論文標題 The role of anaplastic lymphoma kinase in pediatric cancers.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cancer Sci.	6. 最初と最後の頁 1913-1920
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.13333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiwatari M, Seki M, Akahoshi S, Yoshida K, Miyano S, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Ogawa S, Takita J.	4. 巻 14
2. 論文標題 Molecular studies reveal MLL-MLLT10/AF10 and ARID5B-MLL gene fusions displaced in a case of infantile acute lymphoblastic leukemia with complex karyotype.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncol Lett.	6. 最初と最後の頁 2295-2299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/ol.2017.6430.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe K, Kato M, Ishimaru T, Hiwatari M, Suzuki T, Minosaki Y, Takita J, Fujishiro J, Oka A.	4. 巻 28
2. 論文標題 Perioperative management of severe congenital protein C deficiency.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Blood Coagul Fibrinolysis.	6. 最初と最後の頁 646-649
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MBC.0000000000000654.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seki M, Kimura S, 他43名, Takita J	4. 巻 49
2. 論文標題 Recurrent SPI1 (PU.1) fusions in high-risk pediatric T cell acute lymphoblastic leukemia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nat Genet.	6. 最初と最後の頁 1274-1281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/ng.3900.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Monoi A, Sugawa M, Kato M, Seki M, Yoshida K, Shiraishi Y, Sakaguchi H, Ogawa S, Takita J.	4. 巻 59
2. 論文標題 Atypical dyskeratosis congenita diagnosed using whole-exome sequencing.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 933-935
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.13314.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirabayashi S, Seki M, Hasegawa D, Kato M, Hyakuna N, Shuo T, Kimura S, Yoshida K, Kataoka K, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Kiyokawa N, Miyano S, Ogawa S, Takita J, Manabe A.	4. 巻 64(12)
2. 論文標題 Constitutional abnormalities of IDH1 combined with secondary mutations predispose a patient with Maffucci syndrome to acute lymphoblastic leukemia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.26647.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Osumi T, Kato M, Ouchi-Uchiyama M, Tomizawa D, Kataoka K, Fujii Y, Seki M, Takita J, Ogawa S, Uchiyama T, Ohki K, Kiyokawa N.	4. 巻 64(9)
2. 論文標題 Blastic transformation of juvenile myelomonocytic leukemia caused by the copy number gain of oncogenic KRAS.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer. Pediatr Blood Cancer.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.26496.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ohta S, Isojima T, Mizuno Y, Kato M, Mimaki M, Seki M, Sato Y, Ogawa S, Takita J, Kitanaka S, Oka A.	4. 巻 59
2. 論文標題 Partial monosomy of 10p and duplication of another chromosome in two patients.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pediatr Int.	6. 最初と最後の頁 99-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.13181.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計142件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 ベンチとベッドサイドをつなぐ小児がんにおけるトランスレーショナルリサーチ
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松英文, 加藤格, 梅田雄嗣, 足立壯一, 滝田順子
2. 発表標題 急性リンパ性白血病に対するCD19 CAR-T療法
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関 正史, 木村 俊介, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞急性リンパ性白血病における非翻訳領域の網羅的ゲノム解析
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本倉 浩嗣, 高橋 知也, 花岡 伸太郎, 友滝 清一, 西村 尚子, 山本 茜, 友滝 寛子, 岩永 甲午郎, 松倉 崇, 丹羽 房子, 河井 昌彦, 滝田 順子
2. 発表標題 活性型ビタミンD製剤は早産児骨減少症の治療に必要か?
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 馬場 志郎, 滝田 順子, 山崎 和裕
2. 発表標題 成人川崎病冠動脈狭窄の急性閉塞に対する手術方針の検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 邦昭, 加藤 格, 田中 美幸, 盛田 大介, 松田 和之, 高橋 義行, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 中畑 龍俊, 足立 壯一, 滝田 順子, 中沢 洋三
2. 発表標題 CNS-ALLマウスモデルでのpiggyBac CD19 CAR-T細胞脳室内投与の安全性と有効性の検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤 格, 田中 邦昭, 三上 貴司, 児玉 紅美, 中畑 龍俊, 滝田 順子, 足立 壯一, 小川 千登世, 後藤 裕明
2. 発表標題 本邦初の全国小児白血病Patient-derived xenograft(PDX)バンクの樹立
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田 泰央, 関 正史, 関口 昌央, 吉田 美沙, 吉田 健一, 樋渡 光輝, 宮野 悟, 岡 明, 林 泰秀, 田中 祐吉, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 ターゲットキャプチャー法による小児胚細胞腫瘍の変異解析
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芝 剛, 田中 孝之, 西小森 隆太, 井田 弘明, 柴田 洋史, 井澤 和司, 八角 高裕, 齋藤 潤, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 MEFV遺伝子の多様なvariantsに対する疾患関連評価系の確立
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田 吉孝, 八角 高裕, 伊佐 真彦, 仁平 寛士, 芝 剛, 下寺 佐栄子, 柴田 洋史, 田中 孝之, 井澤 和司, 川崎 ゆり, 齋藤 潤, 小原 収, 西小森 隆太, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 遺伝子変異が同定できない免疫不全症例における、患者iPS細胞を用いた解析例の報告
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神鳥 達哉, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 田坂 佳資, 加藤 格, 平松 英文, 足立 壯一, 滝田 順子
2. 発表標題 治療終了32年後に局所再発を認めた片眼性網膜芽細胞腫の一例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高杉 奈緒, 寶月 啓太, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 縦隔腫瘤を伴うT細胞型リンパ性白血病(T-ALL)の小児例に関する臨床的検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺 恵子, 高杉 奈緒, 水島 喜隆, 寶月 啓太, 久貝 太麻衣, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 アシクロビル予防投与下で臍帯血移植中に汎発性帯状疱疹を発症した9歳女児例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁平 寛士, 伊佐 真彦, 芝 剛, 本田 吉孝, 下寺 佐栄子, 柴田 洋史, 田中 孝之, 井澤 和司, 八角 高裕, 西小森 隆太, 丹羽 明, 滝田 順子
2. 発表標題 赤芽球癆を呈したADA2欠損症の一例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 知也, 岩永 甲午郎, 本倉 浩嗣, 花岡 信太郎, 西村 尚子, 友滝 清一, 山本 茜, 友滝 寛子, 松倉 崇, 丹羽 房子, 河井 昌彦, 滝田 順子
2. 発表標題 TH1既往があり前駆B細胞性ALL加療中に1型DMが判明したDown症の8歳男児
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 実沙子, 磯部 知弥, 寶月 啓太, 久貝 太麻衣, 高見 奈緒, 日高 もえ, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 服薬アドヒアランス不良のためTKIの変更を要した慢性骨髄性白血病の幼児例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋田 充代, 塩田 光隆, 西尾 尚記, 加藤 健太郎, 中川 権史, 山下 純英, 土橋 一重, 梅田 雄嗣, 滝田 順子, 秦 大資
2. 発表標題 家族性高コレステロール血症を背景にもつ頭部腫瘤形成性急性リンパ性白血病の一例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野 直子, 吉田 健司, 林 貴大, 高折 徹, 舞鶴 賀奈子, 横山 淳史, 奥田 裕子, 原田 浩二, 小泉 昭夫, 滝田 順子
2. 発表標題 新たに診断された小児四肢疼痛発作症の1家系
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 健, 松田 秀一, 戸口田 淳也, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 再発骨肉腫に対するテモゾロミド+エトポシド内服療法の有効性の検
3. 学会等名 第92回日本整形外科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 竜弥, 岡島 英明, 才田 聡, 金城 昌克, 園田 真理, 小川 絵里, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 荒川 歩, 小林 千登世, 滝田 順子, 上本 伸二
2. 発表標題 Oncologic emergencyを呈した腹腔原発炎症性筋繊維芽細胞腫瘍に対し、積極的外科的切除を行い無再発生存を得ている1例
3. 学会等名 第56回日本小児外科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 本田 吉孝, 赤澤 嶺, 柴田 洋史, 加藤 格, 井澤 和司, 八角 高裕, 西小森 隆太, 滝田 順子
2. 発表標題 後腹膜穿通で発症した難治性十二指腸潰瘍から好酸球性胃腸炎と診断した9歳男児例
3. 学会等名 第68回日本アレルギー学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野 直子, 吉田 健司, 舞鶴 賀奈子, 横山 淳史, 滝田 順子
2. 発表標題 ALDに対する骨髄移植治療評価におけるMRI・MRSの有用性に関する検討
3. 学会等名 第61回小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 竜弥, 岡島 英明, 才田 聡, 金城 昌克, 園田 真理, 小川 絵里, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 荒川 歩, 小林 千登世, 滝田 順子, 上本 伸二
2. 発表標題 Oncologic emergencyを呈した腹腔原発炎症性筋繊維芽細胞腫瘍に対し、積極的外科的切除を行い無再発生存を得ている1例
3. 学会等名 第56回日本小児外科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 本田 吉孝, 赤澤 嶺, 柴田 洋史, 加藤 格, 井澤 和司, 八角 高裕, 西小森 隆太, 滝田 順子
2. 発表標題 後腹膜穿通で発症した難治性十二指腸潰瘍から好酸球性胃腸炎と診断した9歳男児例
3. 学会等名 第68回日本アレルギー学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野 直子, 吉田 健司, 舞鶴 賀奈子, 横山 淳史, 滝田 順子
2. 発表標題 ALDに対する骨髄移植治療評価におけるMRI・MRSの有用性に関する検討
3. 学会等名 第61回小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんにおける治療標的・教育講演
3. 学会等名 2019年度 日本小児血液がん学会社員総会教育セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 健, 松田 秀一, 戸口田 淳也, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 再発骨肉腫に対するテモゾロミド+エトポシド内服療法の有効性の検討
3. 学会等名 第92回日本整形外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木 健太郎, 馬場 志郎, 吉永 大介, 松田 浩一, 平田 拓也, 滝田 順子
2. 発表標題 患者由来iPS細胞を用いたHO1L-1L欠損症における拡張型心筋症発症機序の解明
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉永 大介, 馬場 志郎, 牧山 武, 平田 拓也, 赤木 健太郎, 松田 浩一, 堀江 稔, 滝田 順子
2. 発表標題 iPS心筋を用いたQT延長症候群の表現型に基づく分類法(英語)
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田 浩一, 馬場 志郎, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 万代 昌紀, 滝田 順子
2. 発表標題 胎児不整脈症例の出生後の検討
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田 拓也, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 馬場 志郎, 滝田 順子
2. 発表標題 treat and repairを行った肺血管抵抗の高い心室中隔欠損の1例
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 志郎, 岡島 英明, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 上本 伸二, 滝田 順子
2. 発表標題 門脈肺高血圧に対する肝移植の早期効果
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 志郎, 岡島 英明, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 上本 伸二, 滝田 順子
2. 発表標題 門脈肺高血圧患者は肺高血圧治療薬を中止できるか
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 志郎, 鶴見 文俊, 吉永 大介, 平田 拓也, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 Duchenne型筋ジストロフィー心筋症は細胞内Ca濃度上昇が原因となる
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 馬場 志郎, 衣川 佳数, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 陳 豊史, 池田 義, 伊達 洋至, 滝田 順子
2. 発表標題 Alveolar Capillary Dysplasiaに対して片側生体肺移植を施行した一男児例
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 がん・生殖医療 卵巣組織凍結・融解移植の具現化を目指して- がん生殖医療に必要な知識とその実際 小児科の立場から
3. 学会等名 第59回日本産科婦人科内視鏡学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 がん研究における女性研究者(第6回) シンポジウム 小児がんの分子基盤と新規治療法の開発(Women scientists in cancer research Molecular basis of pediatric cancers and development of novel therapeutic strategies)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 若手企画 10年後のがん研究(Cancer Research in the next 10 years). 第78回日本癌学会総会小児がんの分子基盤と新規治療法の開発パネリスト
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松英文、加藤格、梅田雄嗣、足立壮一、滝田順子
2. 発表標題 小児・若年成人ALLに対するCAR-T細胞療法の実際
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口昌央、滝田順子
2. 発表標題 小児固形腫瘍におけるゲノムプロジェクトの基盤構築
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 関口 昌央, 久保田 泰央, 岡 明, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 遺伝子発現プロファイルによる骨肉腫の生物学的クラスタリング(Biological classification of osteosarcoma based on gene expression profiling)(英語)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松 英文, 加藤 格, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 CAR-T細胞の臨床応用 小児・若年成人ALLに対するCAR-T細胞療法の実際(CAR-T in Clinics Clinical application of CAR-T therapy for acute lymphoblastic leukemia in childhood and adolescence)(英語)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口昌央、滝田順子
2. 発表標題 小児・AYAがんにおけるゲノムプロジェクトの現況と今後 小児固形腫瘍におけるゲノムプロジェクトの基盤構築(Present situation and future prospect of the genome project of pediatric and AYA cancers Fundamentals for Genetic Research Projects in Pediatric Oncology)(英語)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児急性リンパ性白血病の治療標的の探索・特別講演
3. 学会等名 第128回日本血液学会東北地方会, 青森(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 日常診療で遭遇する小児がん．特別講演
3. 学会等名 第82回日本小児科学会滋賀県地方会， 滋賀（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 Precision medicine and molecular target drugs in pediatric hematological malignancies. シンポジウム
3. 学会等名 第81回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 孝之，芝 剛，西小森 隆太，柴田 洋史，井澤 和司，柳町 昌克，齋藤 潤，中畑 龍俊，小原 収，平家 俊男，滝田 順子，八角 高裕
2. 発表標題 多彩な自己炎症性疾患を紐解く インフラマソームを介した自己炎症性疾患の診断・治療にiPS細胞がどのように役立つか？
3. 学会等名 第29回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本 尚幸，本田 吉孝，井澤 和司，前田 由可子，西谷 真彦，仁平 寛，柴田 洋史，田中 孝之，八角 高裕，滝田 順子，西小森 隆太
2. 発表標題 不明熱診療における末梢血1型インターフェロン応答遺伝子群の発現解析の有用性
3. 学会等名 第29回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田 吉孝, 八角 高裕, 伊佐 真彦, 仁平 寛士, 芝 剛, 柴田 洋史, 田中 孝之, 井澤 和司, 川崎 ゆり, 齋藤 潤, 網代 将彦, 萩原 正敏, 岡田 賢, 小原 収, 平家 俊男, 滝田 順子, 西小森 隆太
2. 発表標題 免疫不全：原発性免疫不全症の遺伝子診断におけるExome解析のpitfallと診断困難例に対する解析戦略 患者由来iPS細胞を用いて診断したDeep intron変異による細胞種依存的なNEMO異常症の経験から
3. 学会等名 第47回日本臨床免疫学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takita J
2. 発表標題 Molecular basis of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia. Symposium
3. 学会等名 2019 St. Jude-VIVA-NCMCS Pediatric Hematology/Oncology Forum, Guangzhou (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村 俊介, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病(T-ALL)のDNAメチル化による分類と変異・発現・分化段階・予後との関連性
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村田 翔, 副島 堯史, 鈴木 征吾, 樋渡 光輝, 関 正史, 三谷 友一, 日高 もえ, 佐竹 和代, 野口 隼, 湯坐 有希, 滝田 順子, 康 勝好, 上別府 圭子
2. 発表標題 入院治療中の小児がん患者の身体活動量と家族機能の関連
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林 明日香, 森崎 真由美, 鈴木 征吾, 岩崎 美和, 平田 陽一郎, 佐藤 敦志, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 佐藤 伊織, 上別府 圭子
2. 発表標題 外来通院中の小児血液・腫瘍性疾患患者の移行準備性の特徴 他疾患との比較から
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤崎 弘之, 小松 裕美, 井口 晶裕, 笹原 洋二, 康 勝好, 湯坐 有希, 後藤 裕明, 高橋 義行, 平山 雅浩, 滝田 順子, 家原 知子, 井上 雅美, 小阪 嘉之, 川口 浩史, 田口 智章, 木下 義晶, 米田 光宏, 瀧本 哲也, 松本 公一
2. 発表標題 小児がん拠点病院におけるQuality Indicator
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川場 大輔, 奥野 啓介, 掛江 壮輔, 前島 敦, 佐野 仁志, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 治療中髄外再発により急激な転帰をとったSPI1融合遺伝子陽性T-ALLの一例
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名倉 豊, 曾根 伸治, 中村 潤子, 早川 雅之, 會田 砂良, 川端 みちる, 澤田 良子, 廣瀬 有香, 奥谷 美紅, 上原 茅紘, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 山崎 翔, 石井 一彦, 池田 敏之, 岡崎 仁
2. 発表標題 IgG型冷式抗体による自己免疫性溶血性貧血を疑った1症例
3. 学会等名 第66回 日本輸血・細胞治療学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 入倉 朋也, 星野 昭芳, 日高 もえ, 三谷 友一, 関 正史, 樋渡 光輝, 名倉 豊, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 予防接種後に発症した生後2ヵ月の冷式AIHAの1例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池山 志豪, 平田 陽一郎, 白神 一博, 浦田 晋, 朝海 廣子, 犬塚 亮, 進藤 考洋, 滝田 順子, 藤代 準, 岡 明
2. 発表標題 中心静脈カテーテルのガイドワイヤー遺残を認めた1歳男児の一例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三谷 友一, 日高 もえ, 関 正史, 久保田 泰央, 渡邊 健太郎, 樋渡 光輝, 石丸 哲也, 藤代 準, 岩中 督, 井口 晶裕, 堀 大紀, 小林 良二, 岡 明, 滝田 順子
2. 発表標題 5年にわたり再発を繰り返した難治性臍芽腫例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋 瑛梨, 佐藤 敦志, 樋渡 光輝, 下田 木の実, 竹中 暁, 関 正史, 三谷 友一, 日高 もえ, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 造血幹細胞移植後の血管脆弱性を背景とした脳血管障害の3例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 割田 陽子, 佐藤 敦志, 犬塚 亮, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 北中 幸子, 本田 京子, 佐竹 和代, 小林 智明, 矢野 敬一郎, 岡 明
2. 発表標題 多職種で行う小児の画像検査プレパレーション
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真野 絢子, 池山 志豪, 鬼澤 真実, 高見澤 幸一, 三谷 友一, 関 正史, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 白血病に対する同種骨髄移植後に慢性移植片対宿主病による心嚢液貯留を認めた10歳女児
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日高 もえ, 関 正史, 星野 昭芳, 三谷 友一, 半谷 まゆみ, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 骨髄とリンパ節で異なる表現型を呈した混合表現型急性白血病
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井 裕子, 滝田 順子, 高木 正稔
2. 発表標題 デジタルPCRによる神経芽腫のCopy Number Variation(CNV)解析
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 木村 俊介, 関 正史, 磯部 知弥, 河合 智子, 樋渡 光輝, 吉田 健一, 片岡 圭亮, 佐藤 悠祐, 藤井 陽一, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 岡 明, 康 勝好, 秦 健一郎, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 公開データとの統合による神経芽腫の網羅的ゲノム・エピゲノム解析
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯部 知弥, 関 正史, 吉田 健一, 関口 昌央, 塩澤 裕介, 木村 俊介, 吉田 美沙, 河合 智子, 秋山 政晴, 藤村 純也, 濱 麻人, 家原 知子, 細井 創, 田中 祐吉, 秦 健一郎, 宮野 悟, 小川 誠司, 岡 明, 滝田 順子
2. 発表標題 統合的オミクス解析による膵芽腫の分子病態の解明
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口 昌央, 関 正史, 河合 智子, 磯部 知弥, 吉田 美沙, 吉田 健一, 星野 論子, 白石 友一, 千葉 健一, 宗崎 良太, 渡邊 健太郎, 荒川 ゆうき, 康 勝好, 田口 智章, 岡 明, 宮野 悟, 田中 祐吉, 秦 健一郎, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 メチル化及び発現解析による臨床像・遺伝学的特徴の異なる肝芽腫のサブグループの同定
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 俊介, 関 正史, 吉田 健一, 上野 浩生, 大木 健太郎, 小林 良二, 出口 隆生, 橋井 佳子, 今村 俊彦, 佐藤 篤, 清河 信敬, 小林 正夫, 岡 明, 林 泰秀, 真部 淳, 小原 明, 堀部 敬三, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 幼弱T細胞性急性リンパ性白血病の予後因子の検討
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 泰央, 瓜生 久美子, 伊東 竜也, 河合 智子, 関 正史, 磯部 知弥, 土岐 力, 吉田 健一, 片岡 圭祐, 大木 健太郎, 清河 信敬, 宮野 悟, 岡 明, 林 泰秀, 小川 誠司, 佐藤 篤, 照井 君典, 秦 健一郎, 伊藤 悦郎, 滝田 順子
2. 発表標題 ダウン症候群児の急性リンパ性白血病における包括的なゲノム解析
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝田 順子, 高木 正稔
2. 発表標題 ゲノム不安定性から紐解くがん研究の新展開 神経芽腫におけるDNA修復機能障害とPARP阻害剤の有用性
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口 昌央, 関 正史, 吉田 健一, 吉田 美沙, 白井 了太, 宗崎 良太, 白石 友一, 田口 智章, 加藤 元博, 田中 祐吉, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 肝臓腺癌性腫瘍における現況と展望 網羅的エピゲノム解析による高リスク肝芽腫の治療標的NQO1の同定
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 木村 俊介, 関 正史, 磯部 知弥, 河合 智子, 樋渡 光輝, 吉田 健一, 白石 友一, 千葉 健一, 秦 健一郎, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 PHGDH阻害剤は神経芽腫の増殖を阻害し、アルギニンデイミナーゼはがん代謝を変化させその適応範囲を広げる
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 造血器腫瘍の新知見と治療 小児T細胞性急性リンパ性白血病における新規融合遺伝子の同定
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 俊介, 関 正史, 河合 智子, 吉田 健一, 上野 浩生, 今村 俊彦, 真部 淳, 堀部 敬三, 小原 明, 宮野 悟, 小川 誠司, 秦 健一郎, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病の網羅的DNAメチル化解析による分類と変異・発現・分化段階・予後との関連性
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 泰央, 瓜生 久美子, 伊東 竜也, 関 正史, 清河 信敬, 宮野 悟, 小川 誠司, 照井 君典, 佐藤 篤, 秦 健一郎, 伊藤 悦郎, 滝田 順子
2. 発表標題 ダウン症候群児に発症した急性リンパ性白血病では高頻度にPh-likeを認める
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 泰央, 瓜生 久美子, 伊東 竜也, 河合 智子, 関 正史, 磯部 知弥, 土岐 力, 吉田 健一, 片岡 圭亮, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 大木 健太郎, 清河 信敬, 宮野 悟, 岡 明, 林 泰秀, 小川 誠司, 照井 君典, 佐藤 篤, 秦 健一郎, 伊藤 悦郎, 滝田 順子.
2. 発表標題 ダウン症候群時の急性リンパ性白血病におけるPh-likeの同定
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 俊介, 関 正史, 吉田 健一, 上野 浩生, 塩澤 裕介, 磯部 知弥, 大木 健太郎, 加藤 元博, 康 勝好, 小林 良二, 出口 隆生, 橋井 佳子, 今村 俊彦, 佐藤 篤, 清河 信敬, 真部 淳, 堀部 敬三, 小原 明, 眞田 昌, 小林 正夫, 岡 明, 林 泰秀, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病におけるNOTCH1シグナル活性化変異の種類と臨床的特徴の解析
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤 元博, 大隅 朋生, 辻本 信一, 田村 萌, 内山 芽里, 中林 一彦, 岡村 浩司, 吉田 仁典, 富澤 大輔, 渡辺 輝浩, 高橋 浩之, 堀 司, 山本 将平, 浜本 和子, 右田 昌宏, 緒方 広子, 内山 徹, 木澤 洋恵, 上野 瞳, 白井 了太, 関 正史, 大木 健太郎, 滝田 順子, 犬飼 岳史, 小川 誠司, 北村 俊雄, 松本 公一, 秦 健一郎, 合山 進, 清河 信敬
2. 発表標題 RARA転座陰性の急性前骨髄性白血病におけるRARβ転座
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高杉 奈緒, 日高 もえ, 三谷 友一, 関 正史, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 小児の再発/難治性急性リンパ性白血病に対するクロファラビンを用いた多剤化学療法の有効性
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三谷 友一, 日高 もえ, 関 正史, 樋渡 光輝, 滝田 順子.
2. 発表標題 当施設における小児再発急性白血病に対する2度目の同種骨髄移植症例の成績
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋渡 光輝, 渡邊 健太郎, 木村 俊介, 関口 昌央, 久保田 泰央, 岡 明, 滝田 順子
2. 発表標題 造血器および固形腫瘍におけるSTAT3阻害剤、cucurbitacin Iの抗腫瘍効果の検討
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiwatari Mitsuteru, Kimura Shunsuke, Watanabe Kentaro, Sekiguchi Masahiro, Kubota Yasuo, Takita Junko
2. 発表標題 STAT3阻害剤cucurbitacin IはT-ALLの増殖を抑制する
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maeda Sayaka, Kato Itaru, Umeda Katsutsugu, Hiramatsu Hidefumi, Adachi Souichi, Takita Junko, Tsuneto Satoru
2. 発表標題 小児悪性腫瘍患者の終末期における苦痛緩和のための持続的鎮静
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakamura Misako, Isobe Tomoya, Hogetsu Keita, Kugai Tamae, Takasugi Nao, Hidaka Moe, Mitani Yuichi, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題 BCR-ABL融合遺伝子陽性慢性骨髄性白血病の1歳10ヵ月女児例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名	Tsurusaki Yoshinori, Hamanoue Satoshi, Nagai Jyunichi, Nakamura Wataru, Fujita Sachio, Hayashi Akiko, Miyagawa Naoyuki, Yokosuka Tomoko, Iwasaki Fuminori, Shiomi Masae, Goto Shoko, Kurosawa Kenji, Takita Junko, Hayashi Yasuhide, Tanaka Yukichi, Goto Hiroaki
2. 発表標題	全エクソームシーケンスによる悪性ラブドイド腫瘍の薬剤耐性に関する責任遺伝子の同定
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Sonoda Mari, Umeda Katsutsugu, Nodomi Seishiro, Obu Satoshi, Saida Satoshi, Kato Itaru, Hiramatsu Hidefumi, Ogawa Eri, Okamoto Shinya, Morita Ken, Kamikubo Yasuhiko, Adachi Souichi, Nakahata Tatsutoshi, Okajima Hideaki, Uemoto Shinji, Takita Junko, Heike Toshio
2. 発表標題	肝芽腫に対するCD146をターゲットとした新規治療の開発
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Akazawa Ryo, Umeda Katsutsugu, Tasaka Keiji, Kamitori Tatsuya, Kato Itaru, Hiramatsu Hidefumi, Sakamoto Akio, Okamoto Takeshi, Adachi Souichi, Takita Junko
2. 発表標題	頻回再発骨肉腫に対するテモゾロミド/エトポシドの治療効果
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Takasugi Nao, Hidaka Moe, Mitani Yuichi, Hiwatari Mitsuteru, Uotani Chizue, Suzuki Kan, Fujishiro Jun, Takita Junko
2. 発表標題	初期治療5年後に再発をきたした低リスクB群横紋筋肉腫の2例
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 Kugai Tamae, Mitani Yuichi, Kodachi Yasuo, Fujishiro Jun, Takasugi Nao, Hogetsu Keita, Hidaka Moe, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko.
2. 発表標題 紋筋肉腫治療終了後に重症間質性肺炎を呈した小児例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ogata Hideto, Kato Itaru, Uto Megumi, Kamitori Tatsuya, Tasaka Keiji, Mikami Takashi, Umeda Katsutsugu, Hiramatsu Hidefumi, Fukao Daisuke, Hamahata Keigo, Mizowaki Takashi, Adachi Souichi, Takita Junko
2. 発表標題 緩和的全脳全脊髄照射が長期的有効性を示した難治性中枢神経浸潤急性リンパ性白血病小児症例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tasaka Keiji, Umeda Katsutsugu, Kamitori Tatsuya, Ogata Hideto, Mikami Takashi, Kato Itaru, Hiramatsu Hidefumi, Arakawa Yoshiki, Noguchi Michio, Adachi Souichi, Takita Junko
2. 発表標題 著明な髄腔内脂肪蓄積を合併した頭蓋内growing teratoma syndromeの1例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Yuji, Kato Shota, Shirai Ryota, Osumi Tomoo, Kiyotani Chikako, Watanabe Toshihiko, Hishiki Tomoro, Sekiguchi Masahiro, Seki Masafumi, Takita Junko, Kiyokawa Nobutaka, Miyazaki Osamu, Yoshioka Takako, Matsumoto Kimikazu, Kato Motohiro
2. 発表標題 DICER1複合ヘテロ接合体変異を認めた胸膜肺芽腫の姉弟例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Suzuki Kan, Fujishiro Jun, Watanabe Miho, Uotani Chizue, Takami Shohei, Goshima Tsubasa, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題 当科過去10年間の神経芽腫群腫瘍におけるinitial surgical intervention
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato Keisuke, Sakaguchi Hirotooshi, Kodama Yuichi, Shinkoda Yuichi, Shimada Akira, Iwase Takashi, Takita Junko, Ogawa Chitose, Hiramatsu Hidefumi, Kato Motohiro, Sato Atsushi, Uryu Hideko, Iwai Tsuyako, Saito Akiko, Kawasaki Hirohide, Koh Katsuyoshi, Manabe Atsushi, Horibe Keizo, Shimada Hiroyuki
2. 発表標題 Ph+ALL臨床研究非登録症例の治療実態に関する後方視的調査研究
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takasugi Nao, Mori Takayuki, Hidaka Moe, Mitani Yuichi, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題 神経芽腫に伴う傍腫瘍性神経症候群を呈し、リツキシマブの早期開始により軽快した1例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitani Yuichi, Hogetsu Keita, Kugai Tamae, Takasugi Nao, Hidaka Moe, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題 小児Philadelphia染色体陽性白血病に対するTKI併用化学療法の治療経験
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sato Aiko, Seki Masafumi, Shiraiishi Yuichi, Chiba Kenichi, Tanaka Hiroko, Okita Hajime, Miyano Satoru, Ogawa Seishi, Hosoi Hajime, Takita Junko
2. 発表標題 胎児型横紋筋肉腫におけるFGFR4経路の変異
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kimura Shunsuke, Seki Masafumi, Kawai Tomoko, Yoshida Kenichi, Isobe Tomoya, , Takita Junko(Last)
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病のDNAメチル化による分類と変異・発現・分化段階・予後との強い関連性
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubota Yasuo, Seki Masafumi, Sekiguchi Masahiro, Yoshida Misa, Yoshida Kenichi, Shiraiishi Yuichi, Chiba Kenichi, Tanaka Hiroko, Miyano Satoru, Oka Akira, Hayashi Yasuhide, Tanaka Yukichi, Takita Junko
2. 発表標題 ターゲットキャプチャー法による小児胚細胞腫瘍の遺伝子変異解析
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Watanabe Kentaro, Takita Junko
2. 発表標題 固形腫瘍における基礎医学の新展開 高リスク神経芽腫に対するがん代謝を標的とした新規治療創出
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sekiguchi Masahiro, Seki Masafumi, Kawai Tomoko, Isobe Tomoya, Yoshida Kenichi,, , Takita Junko(Last)
2. 発表標題 網羅的ゲノム解析による高リスク肝芽腫の治療標的ODC1の同定
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児がんの分子病態 .
3. 学会等名 教育講演 北里大学大学院医学系研究科 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 難治性小児がんの治療標的の探索 .
3. 学会等名 特別講演 第4回宮崎小児血液・がん学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病の遺伝学的基盤とその臨床的意義 .
3. 学会等名 第79回日本血液学会学術集会 シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 シンポジウム 固形腫瘍のゲノム医療 .
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児がんにおける統合的ゲノム解析と見えてきた課題 .
3. 学会等名 第二回日本肉腫学会・日本臨床肉腫学会合同年次総会 ランチョンセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三谷友一, 日高もえ, 関正史, 山崎翔, 正本庸介, 樋渡光輝, 滝田順子
2. 発表標題 移植後再発したFLT3-ITDとNUP98-NSD1陽性AMLに対してDLIが奏功した小児例 .
3. 学会等名 第40回日本造血細胞移植学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Isobe T, Sato A, Yoshida K, Kobayashi C, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Fukuda S, Yamamoto S, Tatsuno K, Tsutsumi S, Kiyokawa N, Aoki Y, Ishihara T, Tomizawa D, Miyamura T, Ishii E, Miyano S, Ogawa S, Aburatani H, Mizutani S, Takita J, Takagi M
2. 発表標題 Epigenetic and Transcriptomic Profiling of MLL Rearranged Infant Acute Lymphoblastic Leukemia.
3. 学会等名 The 59th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名	Kimura S, Seki M, Kawai T, Yoshida K, Isobe T, Ueno H, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Ohki K, Kato M, Koh K, Hanada R, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J
2. 発表標題	The Epigenetic and Genetic Landscapes of Pediatric T-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia (T-ALL).
3. 学会等名	The 59th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Kubota Y, Uryu K, Ito T, Kawai T, Seki M, Isobe T, Toki T, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, MD, Takita J
2. 発表標題	Integrated Genetic/Epigenetic Analysis Revealed High Heterogeneity of Acute Lymphoblastic Leukemia in Down Syndrome.
3. 学会等名	The 59th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Hiwatari M, Seki M, Sekiguchi M, Kimura S, Kubota Y, Watanabe K, Oka A, Takita J
2. 発表標題	STAT3 inhibitor, Cucurbitacin I, synergies with crizotinib in vitro preclinical models of Neuroblastoma.
3. 学会等名	第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Mano A, Ikeyama S, Takamizawa K, Mitani Y, Sekiguchi M, Seki M, Hiwatari M, Takita J
2. 発表標題	A 10-year-old girl with immune thrombocytopenia developing after allogeneic bone marrow transplantation for relapsed Philadelphia-positive acute lymphoblastic leukemia.
3. 学会等名	第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名 Hidaka M, Seki M, Hangai M, Mitani Y, Hiwatari M, Oka A, Takita J
2. 発表標題 Hypercalcemia due to concurrent administration of all-trans retinoic acid and voriconazole in the treatment of acute promyelocytic leukemia.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kitaoka H, Watanabe K, Mitani Y, Seki M, Hiwatari M, Yoshida M, Shin M, Morikawa T, Oka A, Takita J
2. 発表標題 Application of genetic analysis of embryonal rhabdomyosarcoma(ERMS) in clinical practice.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yaguchi T, Kimura S, Seki M, Sekiguchi M, Yoshida K, Shiraishi Y, Chiba K, Shiozawa Y, Kataoka K, Fuji Y, Kubota Y, Watanabe K, Hiwatari M, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2. 発表標題 The genetic basis of progression and relapse in CCSK.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kawai T, Hiwatari M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Oka A, Koh K, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2. 発表標題 Genetic and epigenetic analyses of neuroblastoma utilizing the open dataset.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mitani Y, Kato S, Hangai M, Hidaka M, Seki M, Imadome K, Hiwatari M, Oka A, Takita J
2. 発表標題 Cord blood transplantation for refractory cases with Epstein-Barr Virus-induced hemophagocytic lymphohistiocytosis(EBV-HLH).
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kubota Y, Uryu K, Kawai T, Ito T, Hanada I, Toki T, Seki M, Isobe T, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Takita J
2. 発表標題 Integrated genetic/epigenetic analysis revealed high heterogeneity of acute lymphoblastic leukemia in Down syndrome.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kubota Y, Seki M, Isobe T, Kawai T, Yoshida M, Shiozawa R, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Tanaka Y, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Hata K, Takita J
2. 発表標題 Gene expression and methylation profiling of pediatric germ cell tumors.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kimura S, Takita J
2. 発表標題 Integrated genetic analysis of neuroblastoma and clinical applications.
3. 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sekiguchi M, Takita J
2 . 発表標題 Integrated genetic and epigenetic analysis of hepatoblastoma.
3 . 学会等名 第59回小児血液・がん学会学術集会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Mitani Y, Hidaka M, Hangai M, Seki M, Hiwatari M, Takita J
2 . 発表標題 Relapsed pediatric acute myeloid leukemia cases in our institution.
3 . 学会等名 第79回日本血液学会学術集会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kimura S, Seki M, Kawai T, Kawai T, Yoshida K, Shiraiishi Y, Chiba K, Isobe T, Ueno H, Suzuki H, Kataoka K, Tanaka H, Akiyama M, Ohki K, Imamura T, Kiyokawa N, Kobayashi M, Koh K, Hanada R, Manabe A, Ohara A, Sanada M, Hayashi Y, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Genetic and epigenetic landscape of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia (T-ALL).
3 . 学会等名 第79回日本血液学会学術集会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kubota Y, Uryu K, Ito T, Hanada I, Toki T, Seki M, Yoshida K, Sato Y, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Ito E, Takita J
2 . 発表標題 Genome-wide analysis of acute lymphoblastic leukemia in children with Down syndrome.
3 . 学会等名 第79回日本血液学会学術集会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Hangai M, Mitani Y, Seki M, Hiwatari M, Takita J
2 . 発表標題 VZV reactivation in children with hematologic malignancies: A single center 10-years analysis.
3 . 学会等名 第79回日本血液学会学術集会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kimura S, Seki M, Kawai T, Yoshida K, Isobe T, Ueno H, Suzuki H, Ohki K, Imamura T, Kiyokawa N, Kobayashi M, Koh K, Manabe A, Ohara A, Sanada M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia (T-ALL); an integrated genetic and epigenetic analysis.
3 . 学会等名 The 49th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sekiguchi M, Seki M, Kawai T, Isobe T, Yoshida K, Yoshida M, Hoshino N, Shiraishi Y, Souzaki R, Watanabe K, Arakawa Y, Koh K, Hayashi Y, Taguchi T, Sanada M, Tanaka Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Genetic and Epigenetic Analyses of Hepatoblastoma Identify Subgroups with Different Clinical and Biological Features.
3 . 学会等名 The 49th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kimura S, Seki M, Kawai T, Yoshida K, Isobe T, Ueno H, Suzuki H, Ohki K, Imamura T, Kiyokawa N, Kobayashi M, Koh K, Manabe A, Ohara A, Sanada M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia (T-ALL); an integrated genetic and epigenetic analysis.
3 . 学会等名 The13th Congress of Asisan Society for Pediatric Research (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sekiguchi M, Seki M, Kawai T, Isobe T, Yoshida M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Hoshino N, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Souzaki R, Watanabe K, Arakawa Y, Koh K, Hayashi Y, Taguchi T, Sanada M, Tanaka Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Transcriptomic And Epigenetic Analyses Of Hepatoblastoma Identify Subgroups With Different Clinical And Biological Features
3 . 学会等名 The13th Congress of Asisan Society for Pediatric Research (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Mitani Y, Hangai M, Hidaka M, Seki M, Hiwatari M, Oka A, Takita J
2 . 発表標題 Clinical Features and Treatment of Oncologic Emergencies.
3 . 学会等名 The13th Congress of Asisan Society for Pediatric Research (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kubota Y, Seki M, Isobe T, Shiozawa R, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Tanaka Y, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Integrated Genomic Analysis of Pediatric Germ Cell Tumors
3 . 学会等名 The13th Congress of Asisan Society for Pediatric Research (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kawai T, Hiwatari M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Shiroishi Y, Chiba K, Tanaka Y, Oka A, Koh K, Shin K, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Integrated genetic and epigenetic analysis of neuroblastoma utilizing the open dataset.
3 . 学会等名 The13th Congress of Asisan Society for Pediatric Research (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Seki M, Takita J
2. 発表標題 Genetic/epigenetic aberrations of refractory pediatric malignancies in relation to clinical features.
3. 学会等名 第76回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関口昌央, 関正史, 磯部知弥, 吉田美沙, 吉田健一, 片岡圭亮, 白石友一, 千葉健一, 田口智章, 田中祐吉, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 メチル化解析, 遺伝子発現解析を用いた肝芽腫の臨床的及び生物学的特徴の異なるサブグループ同定.
3. 学会等名 第76回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保田泰央, 関正史, 磯部知弥, 塩澤亮輔, 吉田健一, 片岡圭亮, 白石友一, 千葉健一, 田中洋子, 田中祐吉, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 小児胚細胞腫瘍に対する遺伝子発現およびメチル化解析.
3. 学会等名 第76回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村俊介, 関正史, 吉田健一, 白石友一, 千葉健一, 上野浩生, 鈴木啓道, 小原明, 秦健一郎, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病のメチル化およびゲノム異常の網羅的解析.
3. 学会等名 第76回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Seki M, Kimura S, 他37名, Takita J
2. 発表標題 Identifications of novel recurrent PU.1 fusions with highly aggressive phenotype in pediatric cell acute lymphoblastic leukemia.
3. 学会等名 22nd Congress of EHA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三谷友一, 半谷まゆみ, 関正史, 樋渡光輝, 藤代準, 滝田順子, 岡 明
2. 発表標題 当院で経験したoncologic emergencyの臨床的特徴と治療について
3. 学会等名 第120回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 半谷まゆみ, 三谷友一, 関正史, 樋渡光輝, 岩崎美和, 木村敬子, 岡 明, 滝田順子
2. 発表標題 思春期・若年成人世代がん患者の治療における課題.
3. 学会等名 第120回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北岡寛己, 久世崇史, 安藤太郎, 三谷友一, 半谷まゆみ, 関正史, 上羽瑠美, 樋渡光輝, 滝田順子, 岡 明
2. 発表標題 上気道狭窄をきたした胎児型横紋筋肉腫の4歳男児例
3. 学会等名 第120回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保田泰央, 磯部知弥, 関正史, 吉田美沙, 吉田健一, 宮野悟, 岡 明, 田中祐吉, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 Gene expression-based classification of pediatric germ cell tumors
3. 学会等名 第120回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村俊介, 関正史, 吉田健一, 磯部知弥, 小林正夫, 岡 明, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病におけるNOTCH 1 シグナル活性化変異の解析
3. 学会等名 第120回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 滝田順子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本臨床社	5. 総ページ数 132 - 135
3. 書名 日本臨床75巻増刊号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考